

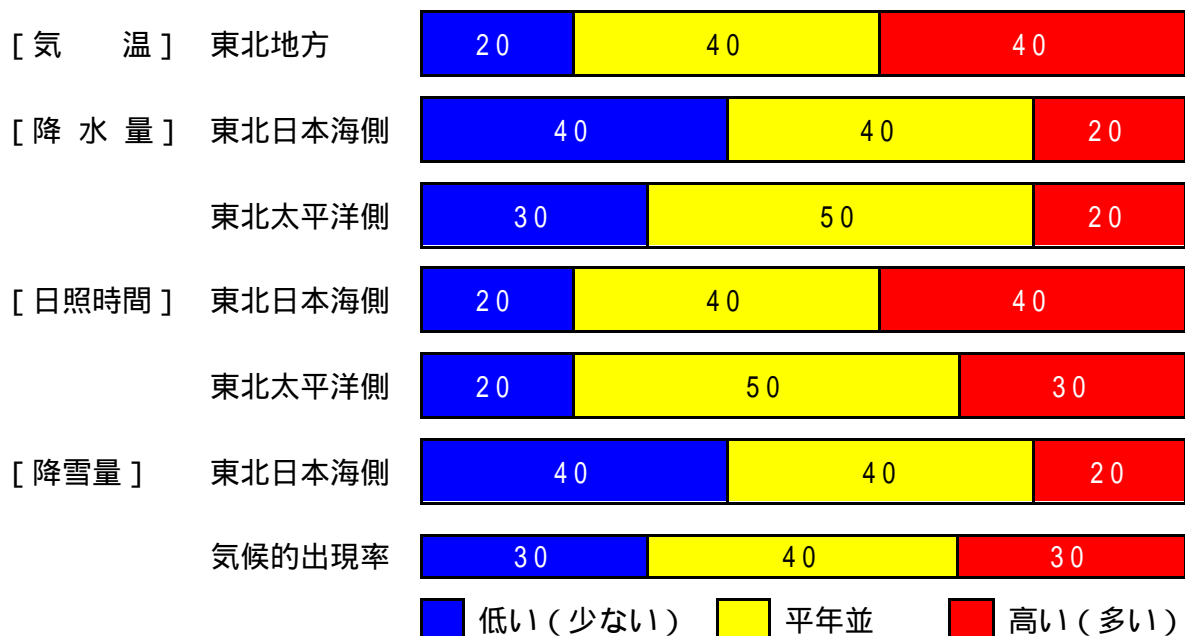
## 東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：12 月 23 日～1 月 22 日）

平成 12 年 12 月 22 日 仙台管区气象台

### 0．お知らせ

12 月 22 日と 29 日に発表する 1 か月予報は、1961～90 年の 30 年平均値に対して予報しています。しかし、予報文 2 ページ目の参考資料に掲載している 30 年平均値及び平年並の範囲は、2000 年 1 月 1 日以降については 1971～2000 年の 30 年平均値に基づいて算出された値となっています。1961～90 年に基づく 30 年平均値と比べて、降水量と日照時間はほぼ同じですが、気温は向こう 1 か月、2 週目、3～4 週目でおよそ 0.5 高い値が掲載されています。また、階級区分の変更に伴い平年並の範囲は気温の 3～4 週目が若干狭まっています。

### 1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[ 気 温 ]: 東北地方は「平年並」か「高い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「低い」の可能性は 20% と小さい。

[ 降 水 量 ]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

[ 日照時間 ]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

[ 降 雪 量 ]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

## 2．予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

冬型の気圧配置は長続きしないでしょう。東北日本海側は平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

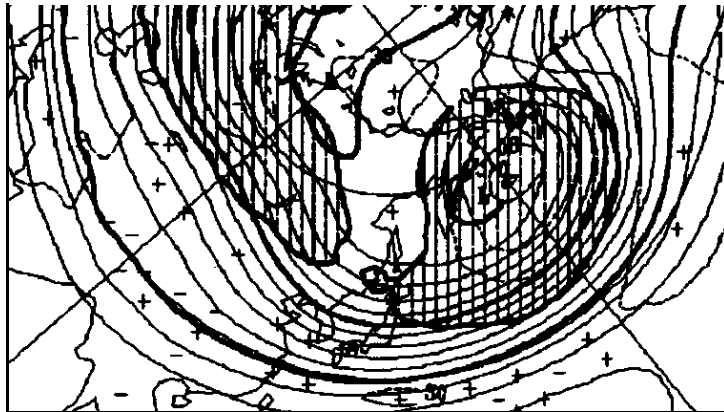
平均気温は平年並か高いでしょう。

平年の晴れ日数：東北日本海側約6日、東北太平洋側約19日

各予報期間の天候の特徴

- 1週目…………… 明日(23日)から明後日(24日)にかけて気圧の谷が通り、  
(12月23日～12月29日) 天気がくずれるでしょう。その後は冬型の気圧配置が強まり、東北日本海側では雪の日が多く、大雪となる所もある見込みです。  
東北太平洋側では沿岸部を中心に概ね晴れるでしょう。  
平均気温は平年並の見込みです。  
平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日
- 2週目…………… 冬型の気圧配置は長続きしないでしょう。平年と同様に、東北  
(12月30日～1月5日) 日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多いでしょう。  
平均気温は平年並の見込みです。  
平年の晴れ日数：東北日本海側約1日、東北太平洋側約4日
- 3～4週目…………… 冬型の気圧配置は長続きせず、気圧の谷が周期的に通過するで  
(1月6日～1月19日) しょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
平均気温は高い見込みです。  
平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約10日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

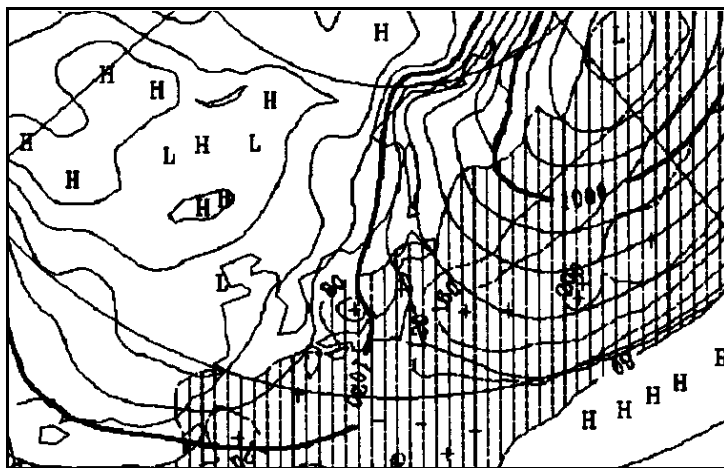


月平均の 500hPa 高度・偏差  
（等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極付近は正偏差で寒気放出期だが、負偏差域はバイカル湖付近とアリューシャン近海。日本付近は北海道がこの負偏差に覆われるが、東北以南は広く正偏差域が広がる。日本付近の偏西風は東西流が卓越しており、周期変化が基調だが、時々寒気の影響を受ける見込み。

週別（図略）では、1～2 週目は日本付近が負偏差に覆われ寒気が南下し易いが、3～4 週目は日本付近が正偏差域となり、寒気が南下しにくい。

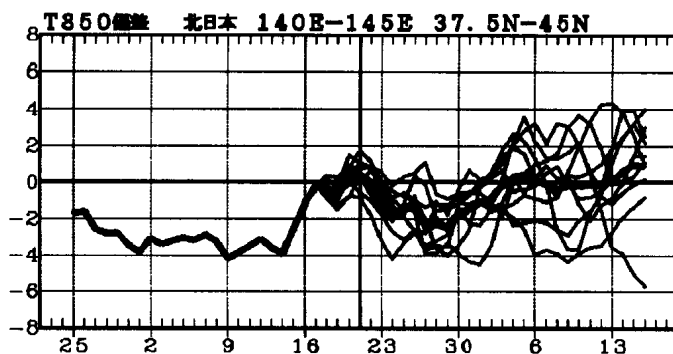


月平均の地上気圧と降水量  
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧があり、西日本に張り出す。一方、ベーリング海では低気圧が発達して、日本付近は冬型の気圧配置となっているが弱い。まとまった降水域は日本の東海上だが、日本付近広く降水域に覆われる。

週別（図略）では、1～2 週目に冬型の気圧配置となるが、3～4 週目は冬型の気圧配置も弱まる。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸：気温平年差（℃）、横軸：日付）

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

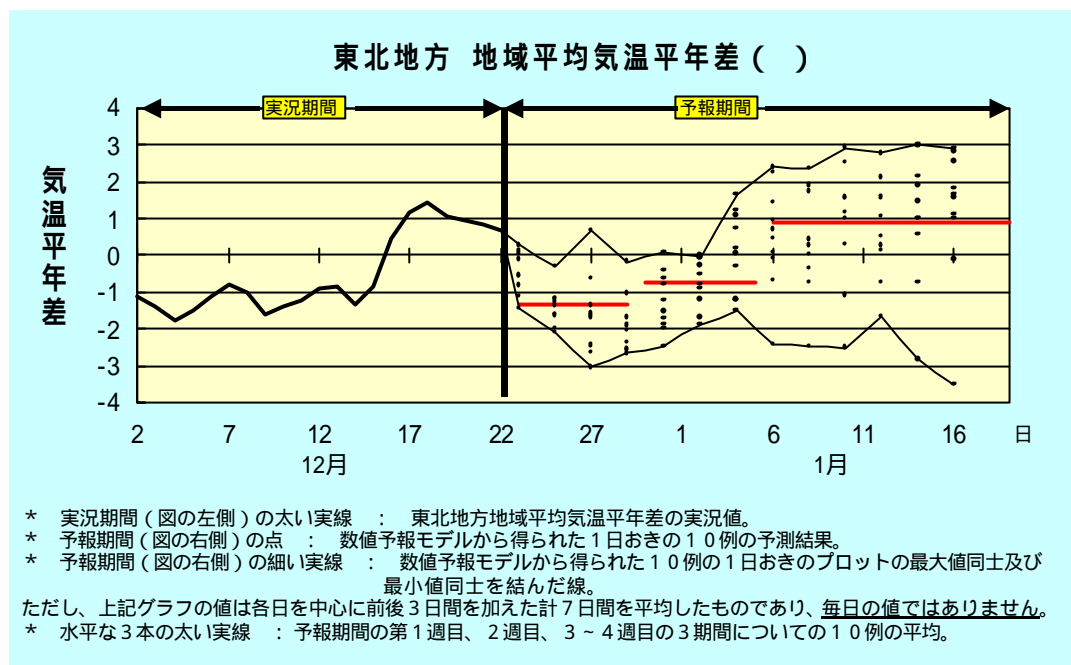
・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1 週目は平年より低いですが、2 週目以降はほぼ平年並で推移する。ただし、3～4 週目にはばらつきがやや大きくなる。

なお、最近では 850hPa の気温よりも地上気温が 2 程高めになる傾向が続いている。（次ページ東北地方地域平均気温平年差図参照）

### 3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1 週目「低い」、2 週目「平年並」、3～4 週目「平年並」を予測している。1 週目は週間予報資料から「平年並」とする。また、2 週目以降は北日本 850hPa 気温平年差の時系列と実況経過から予測を高く修正し、2 週目は「平年並」、3～4 週目は「高い」とする。アンサンブルメンバーのばらつきは 3～4 週目に大きくなるが、信頼度は大きいと考える。

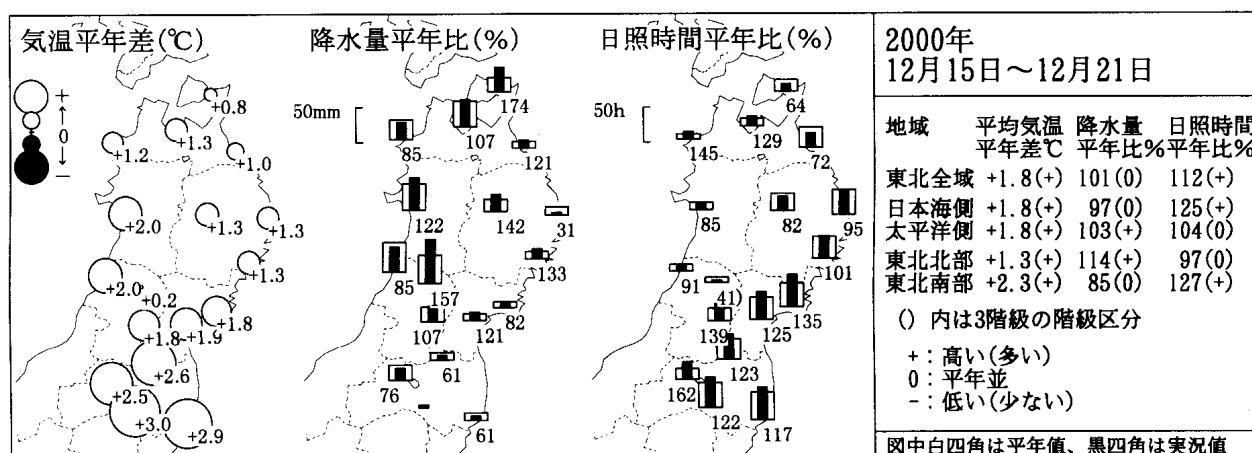


### 4．最近 1 週間 (12 月 15 日～12 月 21 日) の天候の経過

この期間、前線や低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は概ね周期的に変化した。強い寒気は南下せず、降水は雪でなく雨となる日が多かった。

特に、19 日は日本海から東北地方を低気圧が発達しながら通過したため、大荒れの天気となり、東北各地で暴風による被害が発生した。

平均気温は、東北地方で平年差+1.8 と高かった。降水量は、東北北部で平年比 114% と多く、東北南部で 85% と平年並だった。日照時間は、東北北部で平年比 97% と平年並、東北南部で 127% と多かった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 ( 比 )